

《その他》

小野崎恒夫先生を偲ぶ

高 田 富 夫

本学流通情報学部教授、小野崎恒夫先生は長年にわたって病と闘い続けてこられたのでありますが、本年4月ついに帰らぬ人となりました。享年60歳、平均寿命が80歳に喃喃とする昨今の時代からすれば早すぎるお別れでした。昨年12月、年内は最後という講義の日に学内で倒られました。直ちに入院され、一時は病状がかなり回復して、私たちは安堵したものでした。お見舞いに伺ったときなどは、退院した後の研究計画等で熱のこもった話ができるほどでした。しかしその後容態が急速に悪化し、再び教壇に立つことはかないませんでした。これからの円熟した教育・研究活動が期待されるところでした。まことに残念でなりません。

小野崎先生は民間企業での勤務を経験された後、早稲田大学大学院博士課程に入学して研究生生活を始められました。ご専門は経営学です。とりわけ経営戦略論の研究を通して本学および流通情報学部の発展に尽力してこられました。1996年の流通情報学部開設当初から優れた教授陣の一翼をになうスタッフとして、流通情報学の教育に携わってこられました。流通情報学部の教育目標は、商流・物流・情報を三位一体として物流事業およびその関連業務に携わる有為な人材を育成し、世に送り出すことです。先生は流通情報学部において、企業間における合併や提携等の経営戦略の視点から、物流事業のあり方を模索しておられました。

私が先生とお付き合いをいただくようになったのはこの10年あまりのことです。決して長い期間ではありませんでしたが、この間に先生のさまざまな面に触れることができました。歯に衣を着せぬ率直な物言いは時として誤解と軋轢を生むこともありましたが、それは偏に純粹でナイーブなお人柄のなせる業でした。むしろ、先生が懸命に病と戦っておられる姿から、私たち周囲のものは困難と闘って生きていく勇気をどれだけ多くいただいたことでしょう。

先生は今なお体系化の途上にある流通情報学の発展に情熱を注がれました。自らが主導して流通情報学会を立ち上げ、運営を担ってこられたことは強く記憶に残っています。流通情報学、これをロジスティクスと見るのが学部関係者にとって一般的になっています。米国ではさらにロジスティクスはサプライチェーン・マネジメントと同義になっています。また、ロジスティクスの種々の業務がアウトソーシングされたものは3PLと称され、目下世界各国に広く浸透しつつあります。3PLは複数企業の共同事業ですから、その成否を握るキーポイントは3PL構成企業間の関係にあります。この点で私たちは小野崎先生のお力に期待するところ大でした。まことに惜しい方を失いました。しかし私たちはこの悲しみを乗り越えて、進んでまいります。どうかお守りください。

小野崎先生の生前のご活躍に思いを寄せつつ、先生の安らかな眠りとご冥福を心よりお祈り申し上げます。

高田 富夫
(流通情報学部教授)